

1 人が集まるまちづくりについて

(1) 市制 3 0 周年に向けた一体化したまちづくりについて

- ① 本市の魅力ある農業を活用し、農業体験や農泊などの非日常的な体験と、食の大切さを伝える食育を組み合わせた取組を、特に首都圏の子育て世代を含む交流人口の拡大を図る施策として検討できないか、市の見解を伺う。
- ② 市内に点在する文化・観光資源や地場産業、さらには自治会や N P O 団体等をつなぎ、来訪者の移動や滞在時間、回遊性を高めるため、「観る・訪れる・食べる」などの体験を多様な移動手段でつなぐまちづくりの推進について、市の見解を伺う。
- ③ 地域課題の解決やまちづくりに主体的に関わる「まちづくりができる人づくり」の推進が一層重要になると考えます。行政と連携して活動できる人材の育成や、実践的なプロジェクトチームの設置など、具体的な仕組みを構築すべきと考えますが、市の見解を伺う。

2 移動手段でつなぐまちづくりについて

(1) 低速小型 E V 車両の活用について

- ① これまで市が関わった実証実験について、どのような評価や課題を捉えているのか。また、現在はどのような状況なのかを伺う。
- ② 高齢化が進む中、日常生活における移動手段の確保は不可欠である。低速小型 E V 車両について、まずは限定された区域での導入など、段階的なモデル導入を検討できないか、市の見解を伺う。

(2) レンタサイクル事業の再実施について

- ① 本市の認知度向上や来訪者の滞在機会の創出に向けては、駅からの移動手段の充実が重要である。こうした利便性も含めた観点から、レンタサイクル事業の再実施について改めて検討できないか、市の見解を伺う。

- ② 自転車は通学に必要な移動手段であり、経済的理由により購入が困難な家庭への支援は安定した通学できる環境づくりにつながる。レンタサイクル事業を活用した支援について検討できないか、市の見解を伺う。
- ③ スタジアム来場者の試合前の時間帯を活用し、親子連れなどを対象とした自転車の安全啓発や利用促進の取組は、「スポーツのまちいわた」の魅力向上にもつながると考える。こうした取組について市が連携・協働して実施できないか、見解を伺う。
- ④ 自転車は、高齢者の免許返納前後における移動手段及び健康維持の手段として有効である。また、ヘルメット着用の普及を進める上でも活用が期待できると考える。こうした観点からのレンタサイクル事業の活用について、市の見解を伺う。

3 市の諸課題について

(1) ごみの出し方について

- ① 可燃物・不燃物ごみの収集において、分別が不十分なごみの現状と課題を伺う。
- ② ごみ袋への記名は、プライバシーへの配慮または防犯上の観点から若者が移住の際に選択肢となる要素のひとつである。ごみ袋への記名を行っていない自治体への関心もある中、本市におけるごみ袋記名の考え方と、プライバシー保護について市の見解を伺う。
- ③ 本市では地域における清掃活動は活発に行われているが、今後は「ごみを出さない」視点が一層重要である。ごみの発生抑制や減量化に向けた取組について、現在の状況と今後の方向性を伺う。
- ④ 家庭ごみの削減は重要な課題であり、特に生ごみの削減は大きな鍵を握っていると考えます。市民一人ひとりの意識向上を図るためには、分かりやすい標語や親しみやすいメッセージを活用した啓発が有効ではないでしょうか。磐田市独自の工夫を凝らした啓発活動について、市の見解を伺う。

(2) フードバンク支援の有効活用について

- ① 本市におけるフードバンク活動の現状と支援状況を伺う。
- ② 食品ロスの削減と生活支援の充実を図る観点から、食品の提供と受け取りをつなぐ拠点づくりが重要と考える。本市におけるフードバンクの拠点整備について、市の見解を伺う。